

# 魅力発信！えひめ農業 NOW

令和5年 12 月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、12 月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564



<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>


## 目次

目次	1
1 2月のトピックス5選	3
地域の農業・農産物を知る遠隔授業の開催	3
優良品種の普及によりきゅうりの販売額が向上	3
「さくらひめ」現地検討会を開催	4
再編復旧園地の早期成園化を目指して	4
ラディッキオの認知度向上へ、販促活動支援	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
令和6年作に向け「サトイモ栽培管理ニュース」で指導	6
さといも種芋に係る越冬対策実証ほの設置	6
「プチぷよ」栽培の先進地事例視察を実施	7
農福連携マッチングシステムの課題を抽出	7
新規就農者等が地域と自身の経営を考える	8
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
青年農業者が出前授業を実施し、中学生に農業の魅力を伝える	8
■東予地方局 産地戦略推進室	9
いちご栽培環境モニタリングプロジェクトの進捗状況を生産者に広く伝える	9
メロン貯蔵試験の中間結果を検討	9
■今治支局 地域農業育成室	10
次年度のさといも栽培希望者説明会の開催	10
さといもの規模拡大に向けたポイント等を確認	10
落葉果樹のせん定の軽労働化への取組	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	11
しまなみ農業指導班で中学生が農作業を体験	11
■今治支局 産地戦略推進室	12
植物体の硝酸濃度変化から甘長とうがらしの適正な養液濃度を検討	12
イタリア野菜類の産地化に向け生産者等と協議	12
■中予地方局 地域農業育成室	13
労働力確保に向け、大学生に農業アルバイトへの参加を呼びかけ	13
高知県で天敵利用及び環境制御技術を学ぶ	13
職員OBとの連携強化で普及指導活動の効率化を図る	14
さといも省力化生産に向けた視察を実施	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	15
七折小梅の生産安定対策を協議	15


さといも「媛かぐや」の産地育成に向けてステップアップ .....	15
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班 .....	16
写真展「久万高原の四季と農業」で魅力を発信 .....	16
■南予地方局 地域農業育成室 .....	16
高級菓子用果実の生産拡大に向け意識統一 .....	16
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班 .....	17
儲かる農業の実践に向けセミナーを開催 .....	17
農福連携に向けて農作業体験を実施 .....	17
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班 .....	18
女性認定農業者等グループが視察研修を実施 .....	18
就農研修生にイチゴの基本管理を指導 .....	18
「河内晩柑」の園地再生や省力化技術を研修生に説明 .....	19
■南予地方局 産地戦略推進室 .....	19
「媛小春」の鳥害対策実証開始 .....	19
道の駅で推しの「媛かぐや」を試食販売 .....	20
■八幡浜支局 地域農業育成室 .....	20
収穫アルバイトの地域内連携を誘導 .....	20
GLOBAL G. A. P. 認証の更新に向けた指導を実施 .....	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班 .....	21
ぶどう部会が初の販売金額2億円達成！ .....	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班 .....	22
就農候補者の不安を取り除け！青年農業者が相談会を開催 .....	22
作付面積・生産量増加を目指し、寒地系にんにく産地で意見交換会を開催！ .....	22
くりの生産拡大に向け伴走支援を実施 .....	23
■八幡浜支局 産地戦略推進室 .....	23
台湾輸出に向けて準備着々 .....	23
■農産園芸課 高度普及推進グループ .....	24
デルフィニウム「さくらひめ」の収益性向上に向けた出荷目合わせ会を開催 .....	24

## 12月のトピックス5選

標 題	地域の農業・農産物を知る遠隔授業の開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月22日	場所	西条市立吉岡小学校、JA周桑総合選果場	
指導対象	西条市立吉岡小学校4年生(32人)	連携機関	西条市立吉岡小学校、西条市教育委員会、JA周桑	
普及指導内容	<p>○地方局予算「デジタルを活用した地産地消・食育推進事業」の一環として、小学生を対象に地域の農業・農産物を知る機会を創出するため、JAのさといも選果場と教室をオンラインでつなぐ遠隔授業を開催した。</p> <p>○当日は、中継先のJA周桑職員からさといもの選果方法や選果機の仕組み、流通システムなどについて、実際の映像を交えて説明した。</p>			
結果と今後	<p>○生徒からは「何日くらいで店に届くのか」「選果機の不具合があったらどうするのか」「どのような思いで作業しているのか」などの質問が寄せられ、双方向の通信を活かした授業を実施することで、農産物に対する学びを深めることができた。</p> <p>○今後、授業の様子はアーカイブ配信する予定。</p>			
				<p>右：さといもの選果を興味深く見る小学生</p> <p>左：中継先のJA選果場</p>

標 題	優良品種の普及によりきゅうりの販売額が向上		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年12月8日	場所	JAおちいまばり営農経済事業部会議室	
指導対象	JAおちいまばりきゅうり部会役員(9人)	連携機関	JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○令和5年産きゅうりの販売実績の分析や次年度の栽培方針等を検討するきゅうり部会役員会が開催された。</p> <p>○生産者の高齢化や価格低迷等により年々販売額が低下している中、部会と連携して、正品率の高い品種の導入や展示ほを設置し、継続的に栽培技術の指導・支援を行った。</p> <p>○また、次年度、更なる販売額の向上を図るために、本年度に多くのほ場で確認された退緑黄化病対策や栽培面積の拡大等について検討した。</p>			
結果と今後	<p>○秀品率44%(前年27%)、単収7,909kg/10a(前年比113%)と大幅な向上が図れ、4年ぶりに販売額2億円(前年比123%)を突破した。</p> <p>○栽培管理や収益性を示したパンフレットを作成し、面積拡大に向け、2月に新規栽培希望者説明会を開催することとなった。</p> <p>○今後は、退緑黄化病等の病虫害防除を含む今治版防除指針を作成し、媒介するコナジラミ類の防除徹底を呼び掛ける。</p>			
			<p>役員会で実績等を検討</p>	

標 題	「さくらひめ」現地検討会を開催		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年12月8日	場所	松山市、東温市生産者ハウス	
指導対象	さくらひめ生産者（5人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、えひめ農業未来カレッジ、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○卒業式や母の日等の需要期出荷とコスト削減に向け、半促成栽培の播種及び定植を1週間～10日程度早め、出荷時期を前進化させる実証等に取り組んでいる。</p> <p>○実証ほの生育状況を確認するため、農家と関係者で現地検討会を開催した。</p> <p>○検討会では、実証区は慣行区（11月上旬定植）と比べ生育が進んでおり、引き続き栽培管理を徹底することで、需要期出荷が見込めることを確認し、生産者間で、施肥、病害虫防除、電照開始時期等について活発な意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○9月は平年よりも気温が高く推移したが、実証区では播種後、冷蔵庫等での育苗の結果、発芽や苗の生育は良好で、予定どおり10月下旬に定植を実施できた。</p> <p>○出荷時期となる2月に第2回現地検討会を開催し、実証結果について検討を行う。</p>			
			<p>左：実証ほの生産状況 慣行区(左列、11月上旬定植) 実証区(右列、10月下旬定植)</p> <p>右：生産者間で生育状況や栽培管理について意見交換</p>	



標 題	再編復旧園地の早期成園化を目指して		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月25日	場所	宇和島市吉田町	
指導対象	再編復旧園地の担い手農家	連携機関	JA えひめ南、農村整備課	
普及指導内容	<p>○宇和島市では、西日本豪雨で甚大な被害を受けた2地区で再編復旧工事が進んでおり、このうち玉津地区の白浦工区では、近く3園地の工事が完成し、来春から苗木の植栽が始まる予定である。</p> <p>○しかし、工事後の土壌は有機物が少なく、初期生育の遅延が懸念されることから、4種類の土壌改良資材（パーク堆肥、牛ふん堆肥、ヤシガラピート、パーライト）を投入し、保肥・保水力の向上を図る実証を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○当室及び農村整備課、JA が連携して、植栽予定地に計369袋の土壌改良資材を散布し、工事施工業者が重機で土壌混和した。</p> <p>○今後、土壌の状態や生育状況を調査し、効果的な資材の投入による早期成園化を目指す。</p>			
			<p>左：植栽予定箇所に土壌改良資材を配置</p> <p>右：重機を使用して土壌と混和</p>	



標 題	ラディッキオの認知度向上へ、販促活動支援	機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年12月16日	場所	松山三越（地下生鮮売場）
指導対象	ラディッキオ生産者	連携 機関	JA 愛媛たいき
普及指導 内容	<p>○県内消費者への認知度向上を目的に、管内の生産者やJA、青果店と連携し、いちごやはくさい等の大洲市産野菜とあわせた販促活動を実施した。</p> <p>○当班は、生産者とともに来店者に対し、ラディッキオの特徴や大洲市で生産している理由、おいしい食べ方、保存方法などについて説明した。</p>		
結果と今後	<p>○来店者の多くからは「ラディッキオを食べたことがない、知らない」との声が聞かれたが、活動を通して、彩りとほろ苦さを楽める野菜であることをPRできた。</p> <p>○今後は、県内での販促活動に合わせ、SNS やインフルエンサーを活用した情報発信などを計画し、PR の対象・範囲をひろげていく。</p>		





左：大洲産野菜とあわせて陳列  
右：消費者への説明

## えひめ農業NOW


標 題	令和6年作に向け「サトイモ栽培管理ニュース」で指導		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月26日	場所	JA（えひめ未来、周桑）	
指導対象	JA周桑里芋部会（48人） JAえひめ未来（西条）里芋部会（10人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）	
普及指導内容	<p>○管内JAと連携して、さといも栽培講習会を開催した。</p> <p>○12月21日付け指導資料「サトイモ栽培管理ニュース」等に、令和6年作に向けたほ場選定・土づくり・種芋準備・疫病対策等の留意点を取りまとめ、生産者等へ配布、指導した。</p> <p>○また、新規生産者を確保するため、近隣農業者や知人に啓発チラシを用いて声掛けするよう提案した。</p>			
結果と今後	○疫病対策の第一歩として、令和5年の多発を踏まえて地域ぐるみで種子消毒の徹底を唱える参加者がおり、防除意識の高まりがうかがわれたため、2月に改めて、管内関係者を通じた啓発活動を行う予定。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：令和6年作に向けた留意点を指導 右：サトイモ栽培管理ニュース（12/21付）</p> </div> </div>				



標 題	さといも種芋に係る越冬対策実証ほの設置		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月13日、20日	場所	西条市 JA えひめ未来農業経営ほ場	
指導対象	JAえひめ未来 西条あぐりセンター職員（3人）	連携機関	JAえひめ未来	
普及指導内容	○令和5年1月24日～26日に氷点下3℃前後の低温にさらされたことから、種芋の良好な越冬方法を探るため、管内で一般的に行われている畝面へのもみ殻被覆区とその上を不織布で被覆した併用区を設け、地温の推移等や種芋の状況を調査する実証ほを設置した。			
結果と今後	<p>○12月20日までの不織布併用区の地温は、もみ殻単用区に比べ、1日あたり最大0.7～3.1℃高く経過していた。</p> <p>○1～2月の厳寒期を通してデータを収集するとともに、3月に種芋の状況を確認し、地域に適した種芋越冬方法を検討する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：もみ殻で畝面を被覆するJA職員等 右：不織布併用区（左）ともみ殻単用区（右）</p> </div> </div>				


標 題	「プチぷよ」栽培の先進地事例視察を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月7日	場所	宇和島市	
指導対象	(有)別子木材センター(2人)、生産者(1人)	連携機関	(株)山口園芸、南予地方局産地戦略推進室	
普及指導内容	<p>○新居浜市の産直市における新規導入品目であるミニトマト「プチぷよ」の栽培技術向上を図るため、「プチぷよ」を周年栽培している(株)山口園芸のほ場を視察した。</p> <p>○栽培方法について意見交換を行い、樹勢調節やかん水管理の方法等の技術習得を図るとともに、来年度の栽培管理について検討した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「今年11月までだった収穫期間を12月まで延ばせられるよう、今回学んだことを取り入れていきたい」と意欲的な声が聞かれた。</p> <p>○当室では、新居浜市における「プチぷよ」の栽培技術確立に向け、来年度も継続的な巡回指導を行う。</p>			
		<p>【プチぷよ】 ミニトマトの品種で皮が薄く、ぷにぷにした食感が特徴</p> <p>左:「プチぷよ」収穫作業 右:「プチぷよ」の栽培管理について説明に聞き入る参加者</p>		



標 題	農福連携マッチングシステムの課題を抽出		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月26日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	農福に取り組む集落営農法人6法人 西条市農福連携共同窓口(11施設)	連携機関	JA周桑、西条市、地域福祉課	
普及指導内容	<p>○農福連携マッチングを推進するため、地方局予算「農福連携デジタル化支援事業」(R4~5年度)で開発した農作業受注システム「になうて農福」の試験運用に取り組んでいる。</p> <p>○当室では、9月から始まったさといも収穫作業と12月末のアスパラガス枝除去作業の対象農家に、システムの利用啓発や発注入力を支援してきた。</p> <p>○当日はシステムで成立した作業の現地確認を行い、依頼書に掲載する内容を検討した。</p>			
結果と今後	<p>○「になうて農福」は利用者毎に登録し、発注入力する必要があるが、入力まで進めた農家は少なく、登録のみで止まっている農家が多かった。</p> <p>○システムを活用した農福連携マッチングのためには、農家側の発注入力の負担を軽減する運用について、今後話し合いを進める。</p>			
		<p>アスパラガスの枝を運搬する施設通所者</p>		



標 題	新規就農者等が地域と自身の経営を考える		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月19日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	新規就農者、就農予定者他（27人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）、新居浜市、西条市、日本政策金融公庫	
普及指導内容	<p>○新規就農者等が農業経営者として早期に自立し、地域の担い手として活躍できるよう基礎知識や基本技術の習得を図るため、「就農初期農業者研修会」を開催している。</p> <p>○当日、農業振興課から「補助事業の活用について」説明した後、日本政策金融公庫から「地域を考える・自身の経営を考える」をテーマに講演を行った。</p>			
結果と今後	<p>○講演中はグループ討議で、「自分自身の強み・弱み」や「西条農業」について分析する機会があり、チームリーダー中心に討論した結果を発表・共有した。出席者から、知人のかんきつ農家が不要となったコンテナを無償提供するという情報提供もあった。</p> <p>○出席者からは「補助事業を活用する際の流れが分かった」「話したことない人と話ができ、連絡先を交換した」「就農したばかりで、コンテナの無償提供の話はありがたい」などの声が聞けた。</p> <p>○当研修会は、今年度10回の開催を予定しており、次回9回目は1月9日に「鳥獣対策のきほん」と「SNS等を用いたネット上の情報発信について」の講演を予定している。</p>			
				<p>活発な意見交換となったグループ討議</p>

標 題	青年農業者が出前授業を実施し、中学生に農業の魅力伝える		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年12月7日	場所	四国中央市立川之江南中学校	
指導対象	四国中央青年農業者連絡協議会（3人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○青年農業者協議会が実施する出前授業を、1回目（10/25）に続き、開催支援した。</p> <p>○当日は、農業の実地体験として、リーフレタスとハツカダイコンを題材に、青年農業者が野菜の特性とペットボトルを使った栽培方法や管理上の留意点などを説明した。その後、当班と分担して中学2年生（4クラス：148名）に、は種作業等の実習指導や助言を行った。</p>			
結果と今後	<p>○生徒は土入れ、は種、灌水までを体験し、悪戦苦闘しながら作業を終えた。冬休み以降は、各家庭で収穫までの作業を体験することとしている。</p> <p>○食と農をテーマに生徒との交流を交えた出前授業は、当協議会において初めての取組みであり、企画から実践まで意見を交わしながら成し遂げたことで、大きな自信につながり、次年度も継続実施する意向である。</p> <p>○今後、授業後に行ったアンケート結果を分析することとしており、当班は、その取りまとめを支援するとともに、協議会活動に活かせるよう指導する。</p>			
				<p>左：農家が実際に使用している資材の模型を提示</p> <p>右：中学生に栽培のコツを伝えながらの実習指導</p>

標 題	いちご栽培環境モニタリングプロジェクトの進捗状況を生産者に広く伝える		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年12月4日、12日、13日、14日	場所	西条市丹原、玉津、氷見、新居浜市金栄	
指導対象	いちご生産者（若手13人、親世代12人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）、メーカー、農産園芸課、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○若手いちご生産者が栽培環境モニタリング機器を活用し、光合成を促進する最適な環境に制御し単収向上を目指す実証プロジェクトに取り組んでおり、その活動をメンバー以外のいちご生産者に広く伝えるセミナーを4回開催した。</p> <p>○12月4日は若手世代に絞って実施し、メンバーからデータの活用により見えてきた栽培管理の課題の報告と現地ほ場で意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○モニタリングデータを活用する機運が高まり、次年度に機器導入したいという若手生産者も現れた。また、JA えひめ未来新居浜いちご部会では、部会全体での導入を検討している。</p> <p>○親世代からは「若手世代の連帯感が強まったことで、息子の仕事に取り組む姿勢が変わった」など、感謝の言葉も聞かれた。</p> <p>○プロジェクトは3月まで行い今後もメンバー以外の生産者に進捗状況を伝えていく。</p>			
  			<p>左：プロジェクトの有効性を述べるメンバー</p> <p>中：現地ほ場で若手世代が意見交換</p> <p>右：親世代にもプロジェクトの有効性を説明</p>	

標 題	メロン貯蔵試験の中間結果を検討		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年12月25日	場所	JA 周桑	
指導対象		連携機関	JA 周桑、MA 包装資材取扱い事業者	
普及指導内容	<p>○当室と JA 周桑、MA 包装資材販売業者が参集し、MA 包装資材を利用し冷蔵貯蔵した秋作メロンの外観・食味を評価した。</p> <p>○MA 包装資材「Xtend」で包装したアムスメロンを11月9日から35日間、2℃で冷蔵保存した後、包装を取り除き10日間室温で保存し、外観と食味を評価。年末商材としての販売の可能性を検討した。</p>			
結果と今後	<p>○冷蔵庫出庫時にはなかったが、室温での保存後、外観の劣化（へこみや尻部の変色など）が見られた。</p> <p>○一方、食味は良いことから、冷蔵庫出庫後の果実表面の劣化を防ぐことができれば、年末の商品として有利販売ができる可能性があるとして評価。</p> <p>○今後、冷蔵を60日行ったメロンの外観と食味の評価を1月下旬に行う予定。</p>			
 			<p>左：関係者による果実の評価</p> <p>右：果肉の状態</p> <p><b>【MA 包装資材】</b> 果実の鮮度保持に適した低酸素、高二酸化炭素状態に保つ透明の袋資材。</p>	

標 題	次年度のさといも栽培希望者説明会の開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年12月16日	場所	JA おちいまばり 営農経済事業部会議室	
指導対象	さといも栽培希望者（11人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○次年度の新規さといも生産者を確保・育成するため、さといも栽培希望者説明会を開催した。</p> <p>○産地紹介や初心者に対する支援体制等を説明後、昨年度制作した映像「さといもの主な作業の紹介」を活用して、年間作業スケジュールと定植作業等の重要な作業ポイントについて指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した栽培希望者からは「島しょ部でも水田ならば栽培が可能なのか」「定植機等農業機械はレンタルできるか」など、次年度の作付けに向けた具体的な質問が多く出され、栽培への関心の高さがうかがえた。</p>			





左：産地概要の説明  
右：映像「さといもの主な作業の紹介」


標 題	さといもの規模拡大に向けたポイント等を確認		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年12月25日	場所	JA おちいまばり 営農経済事業部会議室	
指導対象	さといも栽培者（27人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○さといも産地拡大に向けた栽培面積増加のポイント等について講習会を開催した。</p> <p>○大規模生産者を育成するために、省力機械の導入メリットや補助事業等を説明するとともに、単収を底上げするための土づくり等、冬期管理の重要性を指導した。</p> <p>○また、今年の春先に一部ほ場で見られた萌芽不良について、JA と連携して原因を調査した結果を報告し、溝切による排水対策など基本技術の励行を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○規模拡大を考えている生産者5人に対して、収穫機（ポテカルゴ）やハイクリアンス仕様の乗用管理機等、機械化に向けて関係機関と連携してサポートしていく。</p>			





左：冬期管理の重要性を説明  
右：萌芽不良の原因と対策を指導



標 題	落葉果樹のせん定の軽労働化への取組		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年12月19日、22日、26日	場所	今治市内生産者ほ場	
指導対象	落葉果樹生産者（15人）	連携機関	JAおちいまばり、(株)マキタ	
普及指導内容	<p>○キウイフルーツやなし、ももなどの落葉果樹のせん定作業の軽労働化や安定生産を目的にせん定講習会を開催した。</p> <p>○当室より各品目に応じたせん定のポイントや病虫害対策など冬季の栽培管理について説明し、実演しながらせん定の指導を行った。</p> <p>○その後、せん定の軽労働化につながる電動のせん定はさみやチェーンソーを紹介し、負担軽減の重要性について周知した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、主枝の切り下げや側枝の更新、予備枝の確保、良い結果母枝（果実が成る枝の基となる枝）の残し方など、せん定の方法について理解を深めた。</p> <p>○参加者も実際に電動はさみでせん定を行い、力を入れずとも枝を切ることができることを体感し、軽労働化の効果を確認した。</p>			
				<p>左：電動はさみの利用方法や使用上の注意点を指導</p> <p>右：キウイフルーツの更新枝等を指導</p>


標 題	しまなみ農業指導班で中学生が農作業を体験		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年12月4日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在所	
指導対象	岩城中学校1年生（8人）、 弓削中学校1年生（11人）	連携機関	上島町	
普及指導内容	<p>○島特産のかんきつ類に関する学習の一環として、中学生が温州みかんの収穫作業を体験した。</p> <p>○当班から、夏に行った摘果作業以降の生育状況について説明した後、収穫作業の手順を解説し、生徒だけの力で樹2本の果実を全て収穫した。</p>			
結果と今後	<p>○生徒が楽しそうに収穫しており、熱心に作業に取り組んだことで時間内に収穫を終えることができた。試食も好評で、事後アンケートでも「岩城のみかんをもっと食べようと思った」と地元農産物への意識を高めることができた。</p> <p>○弓削中学校からの参加は岩城橋開通により初めて実現したが、「次年度以降もぜひ実施したい」と教職員から強い要望があった。</p>			
				
<p>実証ほど中学生が収穫作業を体験</p>				

標 題	植物体の硝酸濃度変化から甘長とうがらしの適正な養液濃度を検討		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年12月20日	場所	今治市玉川町	
指導対象	甘長とうがらし生産者（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○複合環境制御ハウスと隔離培地ベッドを活用した甘長とうがらしの長期越冬栽培技術を確認するため、養液の肥料濃度を徐々にあげながら廃液の肥料濃度および葉柄の硝酸濃度を測定することにより、冬季の適正な養液濃度を検討した。</p> <p>○「普及組織先導型革新技术導入事業」で設置した実証ハウスでは、通常11月で終了する出荷期間を2月まで延長し高単価での販売を実現している一方で、冬期は植物が吸収する水量が徐々に低下するため、養液濃度を高く調整する必要があった。</p>			
結果と今後	<p>○養液の肥料濃度を徐々に高めた今回の実証で、他県の研究機関等でも適正值とされている葉柄の硝酸値7000ppmまで高まった時点の養液濃度であるEC値1.7付近が、冬季における給液の適正值ではないかと推察された。今後はこのEC値を維持しつつ硝酸値及び生育状況を観察し、越冬栽培の養液管理技術の確立を進める。</p> <p>○適正なEC値は気温や生育の変化によって変化していくと考えられることから、生産者自身が簡単にEC値をモニタリングできる養液管理システムを検討する。</p>			
				
				<p>左：冬期も施設内で栽培を継続</p> <p>中：葉柄をすり潰し硝酸値を調査</p> <p>右：養液 EC と硝酸値の推移</p>



標 題	イタリア野菜類の産地化に向け生産者等と協議		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年12月7日、18日	場所	さいさいきて屋、栽培ほ場	
指導対象	イタリア野菜栽培者（5人）	連携機関	JA おちいまばり、トキタ種苗（株）	
普及指導内容	<p>○今治産イタリア野菜類の産地化を目指し、トキタ種苗（株）、さいさいきて屋担当者、生産者とリモート会議を開催し今後の生産計画等を協議した。</p> <p>○会議では、先進事例である「さいたまヨーロッパ野菜研究会」での取組み等が紹介され、その取組みを参考に、商品のPR方法等について協議を行った。</p>			
結果と今後	<p>○協議の結果、取引のある飲食店等からも要望のあった生産者サイドからの事前の出荷情報の発信については、局予算事業で開設した食材情報ポータルサイト「しまなみみんなのディッシュ」を活用し、事前に出荷情報等を定期的に記事として発信、提供するとともに、さいさいきて屋に設置しているイタリア野菜コーナーについても生産者や食べ方を紹介するポップを作成し設置することになった。</p> <p>○次年度の作付品目については、トキタ種苗（株）およびJA おちいまばりの担当者等と1月までに決定し、2月から播種作業等を開始する。</p>			
				
				<p>左：リモートでの先進地事例の紹介</p> <p>中：トキタ種苗（株）との巡回</p> <p>右：生産者、JA との出荷時期の検討</p>



標 題	労働力確保に向け、大学生に農業アルバイトへの参加を呼びかけ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月6日	場所	愛媛大学農学部	
指導対象	愛媛大学農学部1年生(80人)	連携機関	JAえひめ中央	
普及指導内容	<p>○愛媛大学農学部の学生を対象に、農業従事者の高齢化等に伴う農繁期の労働力不足が課題化している現状と、アルバイト等による労働力の確保対策について説明した。</p> <p>○また、JAの農作業サポートセンター担当者が、農作業アルバイトの募集について紹介し、学生の積極的な参加を呼びかけた。</p>			
結果と今後	<p>○12月末現在、JAえひめ中央のアルバイト登録数は156人で、70戸の農家からアルバイト派遣の要請が寄せられている。</p> <p>○中予地域には学生も多く、若い世代への周知を図ったことにより、今後は昨年の170人を上回る登録数が期待されている。</p> <p>○今後も多様な人材活用による、労働力確保に向けた取組みを推進していく。</p>			
			<p>左：アルバイト登録の説明 右：作業中のアルバイト(松山市)</p>	

標 題	高知県で天敵利用及び環境制御技術を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月12日	場所	高知県安芸市	
指導対象	なす生産者、松山地区農業改良普及推進協議会員等(14人)	連携機関	松山市、東温市、全農えひめ、JA(松山市、えひめ中央)	
普及指導内容	<p>○なす生産者代表及び松山地区農業改良普及事業推進協議会員が、天敵導入技術及び環境制御技術の先進県である高知県で視察研修を実施した。</p> <p>○安芸農業改良普及センター及び現地のなす農家から、天敵利用のポイントや温存ハウスの管理状況とともに、販売においては、付加価値を付けるため機能性表示を前面に打ち出しているとの説明を受けた。</p> <p>○研修施設であるJA高知県の出資法人(株)アグリードでは、環境制御システムを活用していることから、研修生は就農時より、当システムを導入することがスタンダードとなっている。</p>			
結果と今後	<p>○今後、高知県の事例を参考に、松山地区での天敵技術の実践や温存ハウスの管理運営等について検討していく。</p> <p>○引き続き天敵利用技術や、管内でも一部で導入されている環境モニタリングで得た情報を活かした栽培管理に努め、高品質生産と環境に優しいなす産地の拡大を図る。</p>			
			<p>【天敵温存ハウス】 天敵を増殖させるためのハウスで、天敵が好むクレオメやゴマ等の植物を栽培。</p> <p>【環境制御システム】 ハウス内の温湿度、炭酸ガス濃度、土壌中の温度、含水率等を監視し、必要に応じて自動調整する装置。高知県では得た情報をIOPクラウド(サワチ)に集積するシステムを構築。</p>	
	高知県の篤農家から技術を学ぶ	株元に炭酸ガスを局所施用するダクトを設置		



標 題	職員 OB との連携強化で普及指導活動の効率化を図る		機関名	中予地方局地域・産地両室
年月日	令和5年12月13日	場所	道後 友倫荘	
指導対象	松山地区普及職員 OB (10人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○若手普及指導員の育成及び OB との連携強化による活動の効率化などを図るため、新たな取組みとして農業関係機関などで活躍する普及 OB との交流研修会を開催した。</p> <p>○OB からは、令和3年度に農業改良普及功労者として「緑白綬有功章」を受章した山西和廣氏が「今後の普及指導活動と後輩職員に期待すること」と題し講演を行った。</p> <p>○当室からは「農福連携による担い手の労働力確保」及び「甘平の連年安定生産技術の確立・普及」に関する普及指導活動について報告し、地域課題の情報を共有した。</p>			
結果と今後	<p>○若手職員は、先輩からチャレンジすることの大切さを学ぶとともに、OB は普及指導活動の現状と地域農業の課題や推進方策について理解を深めた。</p> <p>○活動報告においては、OB からは自らの経験を基に、「農福連携は農業者の理解が不可欠、そのノウハウの蓄積と情報発信に期待する」「甘平の裂果対策に関する農家の関心は高く、各種実証成果の普及による軽減を望む」などの意見やアドバイスを頂いた。</p> <p>○今後も OB との連携強化を通じて、若手普及指導員の育成や活動の効率化など、指導体制の強化に努める。</p>			
			<p>左：参加した普及職員 OB 中：山西氏から若手に向けてのメッセージ 右：普及指導活動実績の報告</p>	



標 題	さといも省力化生産に向けた視察を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月13日	場所	西条市吉田（農事組合法人吉田）	
指導対象	さといも生産者（7人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、東予地方局地域農業育成室	
普及指導内容	<p>○松山地区では、さといもの栽培面積拡大を目指していることから、収穫作業の省力化に向けた機械化体系の検討のため、先進事例である西条市の農事組合法人吉田の視察研修を実施した。</p> <p>○担当者から今年度の作付と機械の利用状況及び大規模栽培体系のメリットについて説明を受けた後、ほ場において、省力化機械による一連の収穫作業を視察した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、さといも栽培の省力化機械について理解を深めることができ「省力化を図るため、収穫機を活用したい」との声が聞かれた。</p> <p>○管内では、産地規模の拡大に向けた大規模生産者の育成のために機械化一貫体系を推進しており、JA 松山市においては希望農家にリースで対応できるよう省力化機械一式の整備を予定している。</p>			
			<p>左：農事組合法人吉田の取組みについて研修 右：収穫機による掘り取り作業の実演</p>	



標 題	七折小梅の生産安定対策を協議		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年12月15日	場所	砥部町七折地区	
指導対象	七折小梅生産安定プロジェクトチーム員他(12人)	連携機関	砥部町、JA えひめ中央、県果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○砥部町特産品の七折小梅の生産安定と産地の再興を図るため、地方局予算を活用して「七折小梅産地再興支援事業」を実施しており、令和5年度第2回七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議を開催した。</p> <p>○当班から、生産安定対策への取組みとして、優良系統樹への改植が今年度約1ha完了見込み(累計では4ha)であることや、樹高の切り下げ及び電動工具の活用による農作業の軽労働化対応、さらに、優良系統母樹園と省力化のための樹形改善モデルの設定について報告した。</p> <p>○果樹研究センターからは、暖冬年における不作の要因として、開花期の高温による花粉の受精能力の低下などにより、花器形成が不十分となって起きていることが報告された。</p>			
結果と今後	<p>○今後の産地の在り方について検討を行うため、ななおれ梅組合員個々にアンケートを実施する。</p> <p>○生産安定対策及び省力化栽培技術については、機械化や労働の改善等に取り組む。</p> <p>○優良系統については、引き続き改植更新を推進する。</p>			
				<p>左：プロジェクト会議での各種報告 右：低樹高モデル樹（せん定時）</p>



標 題	さといも「媛かぐや」の産地育成に向けてステップアップ		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年12月22日	場所	松前町岡田地区	
指導対象	媛かぐや栽培農家(3人)、 JA松山市さといも部会員(11人)	連携機関	JA松山市	
普及指導内容	<p>○当班では、新たな産地の育成を図るため、地方局予算を活用して「媛かぐや産地育成事業」に取り組んでいる。</p> <p>○今年産は、秋期の少雨の影響で減収が見込まれ生鮮出荷を行うこととなったため、出荷規格の目合わせ会を実施し、階級は、大(500~800g)、小(200~500g)の2階級とし、特に枯死した葉柄や変形芋の除去等、出荷規格の統一を徹底するよう指導した。</p> <p>○収穫は12月24日から始まり、平均収量は、約400kg/10a程度の見込み。</p>			
結果と今後	<p>○JA松山市は今年度、新たにさといも部会を設立し産地拡大を目指しており、当班は今後も連携支援を行う。</p> <p>○今後、量販店等での「媛かぐや」の販売促進によるPR活動と加工業者とのマッチングを推進していく。</p>			
				<p>左：媛かぐやの出荷規格目合せ 右：媛かぐやの収穫作業</p>






標 題	写真展「久万高原の四季と農業」で魅力を発信		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年12月26日～ 令和6年1月10日	場所	株式会社松山生協 久万店	
指導対象	上浮穴地区青年農業者連絡協議会 (34人)	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	<p>○青年農業者協議会による写真展の実施を支援し、年末年始に帰省する町内出身者を対象にIターン就農の啓蒙を行った。</p> <p>○写真は、四季の風景が特徴的な久万高原町の自然や農業を営む協議会員の作業風景を織り交ぜて展示しており、併せて町の研修制度のパンフレットや協議会のフォトブックの配布を行い、農業の魅力を発信した。</p>			
結果と今後	<p>○年末年始の買い物客で賑わう店舗を会場としたことで、展示内容が多くの帰省客の目に留まり、効果的な催しとなった。</p> <p>○今後も担い手の確保のため、協議会活動を通じた就農啓発に努める。</p>			
				<p>左：展示写真を見る来場者</p> <p>右：案内チラシ</p>


標 題	高級菓子用果実の生産拡大に向け意識統一		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年12月19日	場所	南予地方局	
指導対象	高級菓子用果実の生産者	連携 機関	(株)源吉兆庵、JA えひめ南、 市町ほか	
普及指導 内容	<p>○(株)源吉兆庵向け高級菓子用果実の生産に係る関係者が一堂に会し、今年の生産実績や今後の方向等について協議した。</p> <p>○今年産は、もも、かき、くりで前年を上回る出荷量となり、さらなる供給拡大に向けた要望が示されたほか、生産面では、今後、高齢農家のリタイヤが見込まれるなか、苗の新植と併せて、既存園地の継承にも積極的に取り組むことを申し合わせた。</p> <p>○当室からは、今年度実施している柿の貯蔵試験について、果実の着色や軟化の状況を報告した。</p>			
結果と今後	<p>○12月には、柿のせん定講習会を開催し、樹高が高くなった樹の切り下げや、病害枝の除去等についてポイントを説明する。</p> <p>○次年度も高品質・多収生産に向け、既存生産者の面積拡大や新規栽培者の掘り起こしに関係機関が連携して取り組むこととしている。</p>			
				<p>左：ファクトリーブランド促進 協議会</p> <p>右：柿のせん定指導</p>

標 題	儲かる農業の実践に向けセミナーを開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年12月8日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	新規就農者、認定農業者等（46人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○新規就農者の定着及び安定した農業収入の確保に向け、「儲かる農業鬼北地区交流セミナー」を開催した。</p> <p>○近年の温暖化を逆手に取り、冷涼な鬼北地域への導入を実証中の「紅まどんな（愛媛果試第28号）」の栽培状況や、年収1千万円を想定した「儲かる農業経営モデル」を当班から説明した。</p> <p>○また、事業者によるドローン防除技術の講演やデモフライトを行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「当地域で紅まどんなを栽培した際の特性について理解を深めることができた」「今後も栽培状況をフィードバックしてほしい」などの声が聞かれ、高収益品目導入の可能性に高い関心を示していた。</p> <p>○引き続き、就農後間もない農業者へのきめ細かな相談対応や指導を行い、早期経営安定と地域への定着につなげることにしている。</p>			
				<p>左：「紅まどんな（愛媛果試第28号）」を熱心に観察する参加者</p> <p>右：ドローン防除技術のデモフライト</p>



標 題	農福連携に向けて農作業体験を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年12月18日、19日	場所	鬼北町内現地ほ場	
指導対象	障がい者就労支援施設職員・利用者、農家（7人）	連携機関	鬼北町	
普及指導内容	<p>○農業者と障がい者就労支援施設利用者の連携について理解促進を図り、農業分野への障がい者就労を促進するため「農業版ジョブコーチ育成研修会」を開催した。</p> <p>○当班及び農家からミニトマトの収穫作業や選別作業、パック詰めの方法等について説明した後、施設利用者が収穫作業を体験した。</p>			
結果と今後	<p>○作業体験を通して、収穫作業は比較的取り組みやすいことや、選別・パック詰めはやや難しいことなどを確認した。</p> <p>○今後、具体的な作業内容や就労条件等について、農家と就労支援施設の双方で協議していく予定。当室は、引き続き農業分野の労働力確保に向けて、施設とのマッチングを支援していく。</p>			
				<p>左：ミニトマトの収穫方法を指導</p> <p>右：パック詰め作業に挑戦</p>



標 題	女性認定農業者等グループが視察研修を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年12月6日	場所	企業組合津島あぐり工房あすも	
指導対象	愛・レディースネット会員（5人）	連携機関	愛南町	
普及指導内容	<p>○愛南町の女性認定農業者等で構成されるグループ「愛・レディースネット」では、農山漁村における男女共同参画の推進に向けた活動を行っており、当班ではグループ員からの相談を受け、自主的な活動へのアドバイスをを行っている。</p> <p>○今回、企業組合津島あぐり工房あすもへの視察を企画し、女性起業家として活躍している山下代表から、起業と経営変遷、移動販売車の運用や直売所の運営支援などの取組みについて学ぶとともに、麦味噌作りなどの体験を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○グループ員からは「女性を中心に生き活きと活動している企業組合の取組みを直接体験することができ、良い刺激を受けた」との感想が聞かれた。</p> <p>○当班では引き続き、女性農業者の視点を生かした研修会等の開催を支援し、女性の活躍を推進する。</p>			
				<p>左：山下代表の取組みを紹介 右：麦味噌作りを体験</p>

標 題	就農研修生にイチゴの基本管理を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年12月28日	場所	JA えひめ南南宇和営農センター	
指導対象	JA えひめ南就農研修生（3人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○就農研修生の生産技術習得と就農後の早期経営確立を目的とした栽培研修会を開催した。</p> <p>○今回のテーマはイチゴ栽培で、「紅い雫」や「あまおとめ」等の品種特性や育苗方法の紹介のほか、土耕や高設栽培のメリットとデメリットなどを当班から説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「就農に向けてのイメージが膨らんだ」「今後の経営設計の参考にした」との感想が聞かれた。</p> <p>○今後もイチゴの栽培研修会の開催を計画しており、次回は就農研修生のイチゴ作付予定地において、土づくり等の作付準備について、アドバイスを行う予定。</p>			
		<p>イチゴの栽培方法を説明</p>		



標 題	「河内晩柑」の園地再生や省力化技術を研修生に説明		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年12月25日	場所	JA えひめ南 研修ほ場	
指導対象	JA えひめ南研修生（2人）、地域おこし協力隊（1人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○当班では、「河内晩柑」のカットバックによる老木再生や、自根の発生により強勢となった樹の主幹への傷入れ処理による樹勢安定などについて、JA えひめ南の研修ほ場を利用し、有効性の調査を行っている。</p> <p>○今回、主幹への傷入れ処理後2年目の樹における夏秋梢の発生抑制程度を、研修生とともに調査した。</p>			
結果と今後	<p>○研修生からは「処理年だけでなく、2年目でも明らかに夏秋梢が減少していた」「今後、借り受けた園地に自根があった場合にはぜひ試してみたい」と、前向きな意見が聞かれた。</p> <p>○当班では、就農を目指す研修生に、引き続き樹勢安定や高品質生産に繋がる技術の指導を行う。</p>			
			<p>左：主幹への傷入れ処理あり 右：傷入れ処理なし</p>	



標 題	「媛小春」の鳥害対策実証開始		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年12月7日、22日	場所	宇和島市玉津	
指導対象	「媛小春」生産者	連携機関		
普及指導内容	<p>○地方局予算「南予の媛小春魅力アップ事業」では、栽培上の課題解決と認知度向上を目指しており、課題の一つであるヒヨドリによる被害防止対策として、簡易なベタ掛けでの防鳥ネットを設置した。</p> <p>○鳥の侵入防止に効果が見込める半面、降雪時にはネットへ着雪しやすく、枝折れ被害が助長される懸念があるため、22日の積雪時には除雪等の対策を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○今回の実証では、ネットによる鳥害防止効果確認のほか、2月まで樹上におく完熟果の商品性についても検討する。</p> <p>○なお、当室では、ネット設置のコストやリスクを考慮し、被害が増える前に収穫する「年内獲り」の検証も行う予定。</p>			
	 <p>ベタ掛け防鳥ネットを設置</p>	 <p>降雪時の様子（12/22）</p>	 <p>ネットに着いた雪を除雪</p>	



標 題	道の駅で推しの「媛かぐや」を試食販売		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年12月28日、29日	場所	道の駅みま	
指導対象	道の駅みま「媛かぐや」生産者（10戸）	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○同駅の集客力アップに向け、特色ある品目をクローズアップしてPR販売を行う取り組みを行っており、今回は「媛かぐや」の試食販売を実施した。</p> <p>○特設コーナーではパネルを展示し、電子レンジ調理による試食とともに、生活研究グループ考案のレシピを配布しながらPRした。</p>			
結果と今後	<p>○当日は同駅の年末感謝祭で多くの来場があり、「媛かぐや」コーナーでは100人以上が試食した。昨年度に店頭で紹介を行っていたこともあり、来店者からの反応は良く販売も順調で、知名度は確実にアップしている。生産者も売れ行きを心配して売り場をチェックするなど、生産サイドの出荷意欲も向上している。</p> <p>○次の押し品目には、2月の「寒締めあまおとめ」へのクローズアップを計画している。</p>			
				
			<p>左：パネルで特徴を紹介 おでんで試食提供 右：簡単調理の4種類レシピ</p>	


標 題	収穫アルバイトの地域内連携を誘導		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年12月7日	場所	八幡浜市真穴・舌田（穴井公民館・マンダリン）	
指導対象	就農意向者（みかんアルバイト62人）、三崎雇用促進協議会員（6人）	連携機関	JAにしよう、伊方町	
普及指導内容	<p>○当管内では、県外アルバイトが温州みかん地域での収穫作業終了後、継続して晩柑地域に移り収穫作業を行えるよう、域内連携に取り組んでいる。</p> <p>○今回、三崎地区が晩柑収穫のアルバイトを募集する会に参加し、労働力確保を支援した。</p> <p>○また、個別に今後の就農意向などの聞き取りを行い、アルバイトリピーターから研修生・就農へつながるよう誘導した。</p>			
結果と今後	<p>○晩柑地域での収穫に興味を持つアルバイトは多かったが、次のアルバイト先が決まっているなどの理由から、直ちに応募する人は多くはなかった。</p> <p>○産地での農作業体験により就農意欲が出るケースもあることから、今後も継続してアルバイトへのアプローチを行い、地域内連携による労働力確保と就農に結びつけていく。また、各地区の雇用促進協議会に対しては、アルバイト確保に向けて、受入れ体制の整備（宿舍の充実等）や働きやすい環境整備を支援していく。</p>			
				
			<p>左：アルバイトに説明する 三崎地区の生産者 右：個別相談</p>	


標 題	GLOBAL G. A. P. 認証の更新に向けた指導を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年12月19日、20日	場所	八幡浜市、伊方町	
指導対象	GLOBAL G. A. P. 認証取得事業者（3者）	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	<p>○令和6年1月から、青果物においてGLOBAL G. A. P. 認証を取得するには、これまで必要であった取組みに加え、環境持続可能性や労働安全等に関わる項目が強化された新たな基準を満たす必要がある。</p> <p>○管内は、県内最多のGLOBAL G. A. P. 認証事業者を有していることから、各事業者に新たな取組事項やその意義を説明し、自ら考えて対応することの重要性を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○事業者からは「新基準の取組みを行うことで、従業員が働きやすい環境をさらに整備したい」「今まで以上に高品質なかんきつを生産したい」との声が聞かれた。</p> <p>○管内の認証事業者のうち2者は、全国的にも早い令和6年1月に新基準での認証審査を受ける予定である。</p> <p>○当室では引き続き、認証事業者がGLOBAL G. A. P. の取組みを通して、自らの経営管理を改善できるよう指導する。</p>			
				<p>【GLOBAL G. A. P.】 G. A. P. とは、農業における持続可能性の確保と経営改善に向けた生産工程管理の取組を示す Good Agricultural Practice の略。その中でも、最も国際的に認められたものをGLOBAL G. A. P. と言い、認証機関の審査に合格すると認証を取得できる。</p>
新基準に向けた打合せ		収穫物への泥付着の防止対策		

標 題	ぶどう部会が初の販売金額2億円達成！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年12月8日	場所	JA 愛媛たいき五十崎支所	
指導対象	ぶどう部会員（35人）	連携機関	JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○ぶどう部会の令和5年産全体反省会が開催され、目標としていた販売額2億円（対前年比114%）を初めて達成したことが報告された。当班は、タイムリーな栽培技術指導等を通じて、「シャインマスカット」の出荷量増加や「ピオーネ」の単価上昇等に寄与することができた。</p> <p>○今年度、部会員のほ場で実施した「ピオーネ」の着色促進実証試験の結果もあわせて報告し、等級の向上により収益の増加が見込めることを説明した。</p>			
結果と今後	<p>○部会員からは「処理によって着色が向上し単価も上昇傾向なので、生産を続けてさらなる売上増加を目指したい」といった意気込みも多く聞かれた。</p> <p>○来年度は、部会全員を対象とした処理講習会を実施するとともに、残された課題について試験を続け、着色促進技術を普及させてさらなる販売金額の増加を目指す。</p>			
				<p>左：無処理の果房(上)と 処理した果房(下)</p> <p>右：果皮色の調査</p>

標 題	就農候補者の不安を取り除け！青年農業者が相談会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年12月6日、15日	場所	JAひがしうわ宇和営農センター・畜産センター	
指導対象	新規就農者・就農候補者（4人）	連携機関	西予市、JAひがしうわ	
普及指導内容	<p>○青年農業者と連携し、就農候補者等が農業を始める際に抱える課題へのアドバイスを 行い不安解消につなげる相談会を開催した。</p> <p>○会では、住居や農地、労働力の確保や技術習得、仲間づくりなど、多くの相談が寄せられ、 青年農業者は自らの体験談を交えながら助言していた。</p> <p>○また、青年農業者の地域貢献活動（鳥獣害対策）を体験する機会を設け、仲間づくり にもつながる組織活動への参加を呼びかけた。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「同世代の農業者とつながりを持って良かった」「経営開始にあたり、労働力の確保や資金面に不安があったが補助事業の紹介等もあり心強かった」との声が聞かれた。</p> <p>○当班は、今後も関係機関・団体と連携しながら、新規就農者の確保・育成に取り組む。</p>			
				<p>左：先輩農業者からアドバイス 右：地域貢献活動を体験</p>

標 題	作付面積・生産量増加を目指し、寒地系にんにく産地で意見交換会を開催！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年12月14日	場所	大野ヶ原寺山集会所	
指導対象	大野ヶ原にんにく組合員（7人）	連携機関	西予市、(株)祐	
普及指導内容	<p>○寒地系にんにくの作付面積と生産量の増加を図るため、今後の栽培管理等について意見交換を行った。</p> <p>○意見交換では、省力化機械使用による労働力削減効果を反映した栽培マニュアルや、周辺地域に面積を拡大するうえでの課題について検討するとともに、組合の活動方針について意識統一を図った。</p> <p>○当班からは、販路拡大のために首都圏で実施した市場調査結果を基に、消費者が求めるにんにくの動向について報告した。</p>			
結果と今後	<p>○栽培マニュアルを見直し、機械化一貫体系の確立により、労力軽減を図ることで適期作業を行い、収量増加と品質向上を図る取組みを支援する。</p> <p>○また、寒地系にんにくの適正試験の実施等により、近郊地域への面積拡大の取組みを支援する。</p>			
				<p>左：生育状況（根量）を確認 右：市場調査報告を受けて協議</p>

標 題	くりの生産拡大に向け伴走支援を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年12月19日	場所	西予市城川町下相	
指導対象	農地所有適格法人（くり生産）	連携機関	西予市、JAひがしうわ	
普及指導内容	<p>○奥伊予地域（城川町）で、くり生産の中心を担うことが期待される農地所有適格法人「(株)西の栗」が12月に設立された。</p> <p>○当班は、法人の設立支援を行うほか、集積した園地での生産拡大に向け、苗木定植時の排水や肥培管理等の技術指導、活用できる補助事業の情報提供を行った。</p> <p>○また、園地の簡易土壌分析を行い、不足する肥料について定植時に標準量の施肥を行うよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○適切な栽培管理を行うため、園地の土壌条件、栽培開始に向けて必要となる準備について、生産者の認識を深めることができた。</p> <p>○今後も、栽培技術指導や補助事業の活用等について支援し、生産拡大を推進する。</p>			
		<p>左：くり定植予定園地の確認 右：補助事業、簡易土壌分析結果等の説明</p>		

標 題	台湾輸出に向けて準備着々		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年12月7～14日	場所	八幡浜市内現地園地	
指導対象	台湾輸出農家（3戸）	連携機関	食ブランドマーケティング課	
普及指導内容	<p>○令和5年産の甘平と屋根掛け温州みかんの台湾輸出開始を1月初めに控え、各生産者の防除暦を確認した。</p> <p>○また、残留農薬検査のサンプル確保に合わせ、生育状況を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○台湾の残留農薬基準値については、昨年度から変更がないため、防除に対する負担は少なかった。</p> <p>○年内に出荷日等についての最終打合せを実施し、年明けには選果や箱詰め作業等の指導・確認を実施する。</p>			
		<p>左：台湾への出荷を待つ甘平 右：温州みかん</p>		



標 題	デルフィニウム「さくらひめ」の収益性向上に向けた出荷目合わせ会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年12月8日	場所	JA 全農えひめ農業技術センター研修室	
指導対象	生産者（8人）	連携機関	関係市場、JA グループ、県花き研究指導室	
普及指導内容	<p>○デルフィニウム「さくらひめ」の生産販売に係る課題等について、生産者や関係機関と情報共有するとともに、秀品率及び収益性向上を図るため、出荷時の選花の目合わせ会を実施した。</p> <p>○目合わせに伴い、近年の生産販売動向を報告するとともに、花き研究指導室から今後の連続出荷に向けた下葉・芽かきやかん水管理等の栽培ポイントについて説明した。</p>			
結果と今後	<p>○目合わせでは、関係市場から草姿のトータルバランスを見て一定のボリュームを満たした出荷の重要性等が示唆され、協議の結果、出荷基準を一部変更することを申し合わせた。</p> <p>○今後も「さくらひめ」の収益性向上に向け、関係機関と連携した生産指導に取り組む。</p>			



左：出荷基準の説明

右：出荷時の注意点を確認

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543